

(別紙1)

管理運営状況 評価シート【令和5年度】

(評価日 令和6年6月21日)

1 施設の概要

施設名	岩手県立水産科学館
所在地 電話・FAX HP・電子メール	宮古市日立浜町 32 番地 28 TEL 0193-63-5353 FAX 0193-64-4855 http://www.city.miyako.iwate.jp/suisan/suisan_kagakukan.html
設置根拠	水産科学館条例
設置目的	(設置：昭和61年4月18日) 水産資源、水産技術等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の水産についての知識の普及及び教養の向上を図る。
施設概要	敷地面積、建物面積、主な施設、利用定員等 敷地面積 5,671m ² 建物面積 1,535m ² (常設展示室 600m ² 、特別展示室 100m ² 、集会室 70m ² 、エントランスホール 135m ² 等)
施設所管課	岩手県農林水産部水産振興課 (電話 019-629-5817 メールアドレス AF0013@pref.iwate.jp)

2 指定管理者

指定管理者名	宮古市
指定期間	令和5年4月1日～令和10年3月31日(5年間)
連絡先	宮古市産業振興部水産課 TEL 0193-62-2111

3 指定管理者が行う業務等

業務内容(主なもの)	管理運営及び企画全般、資料の収集、保管、展示、入館料収納事務、宣伝、広報等		
職員配置、管理体制	7名 (令和6年3月31日現在) (内訳) 正職員3名、会計年度任用職員4名	組織図 館長兼業務係長—主査—主任—資料管理員 —施設管理員—事務補助員	
利用料金	一般310円(※団体1人につき140円)、大学生・専門学校生等140円(※団体1人につき70円)、高校生以下無料 ※20人以上での来館は団体料金		
開館時間	9時から16時30分まで ※通常の開館時間外の入館希望者があつた場合は、随時対応	休館日	月曜日(祝日と重なる場合は一番近い平日) 年末年始(12月28日から1月4日まで)

4 施設の利用状況

(単位：)

(利用者数、稼働率等)	前期間平均	指定管理期間						備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	期間平均	
第1四半期	2,363	2,394						
第2四半期	4,955	5,311						
第3四半期	1,654	1,766						
第4四半期	1,253	1,851						
年間計(実績)	10,225	11,322						
年間計(計画)		14,974						H24入館者数

(単位：千円)

5 収支の状況

区 分	前期間 平均	指定管理期間						備考
		令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	期間平均	
収入	指定管理料	32,639	33,268					
	入館料等	1,713	2,086					
	宮古市一般財源	10,472	17,087					
	小計	44,824	52,441					
支出	報酬	4,885	3,787					
	給料	10,922	15,908					
	職員手当等	5,949	7,305					
	共済費	3,822	4,450					
	需用費	9,409	10,876					
	役務費	686	490					
	委託料	8,275	8,816					
	賃借料	876	809					
	小計	44,824	52,441					
収支差額	0	0						

6 利用者の意見等への対応状況

(1) 利用者意見（満足度等）の把握方法

把握方法	アンケート	実施主体	岩手県立水産科学館
------	-------	------	-----------

(2) 利用者からの苦情・要望

受付件数	苦情2件、要望1件、その他0件		
主な苦情、要望等	対応状況		
①常設展示室ジオラマカメラが作動しない	開館当時から38年経過して修繕不能、改修に向け岩手県と協議中		
②魚の説明がほしい	宮古で捕れる魚一覧の説明板を掲示した		
③水産科学館の場所がわかりづらい	情報冊子にQRコードを掲載した		
<p>その他利用者からの積極的な評価等</p> <p>エントランスホールに水槽を設置し、宮古近海に生息するものを中心とした生きた魚貝類を展示しており、入館者から好評である。</p> <p>また、館内での写真や動画撮影を認めており、こちらも好評である。</p> <p>さらに、東日本大震災に関する展示物や関係図書を設置してあり、永久的に残してほしいとの声が複数寄せられている。</p>			

7 業務点検・評価（※）

(1) 業務の履行状況

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運營業務	仕様書及び関係法令に基づき次の業務を完全に履行すること。 【業務区分】 管理運營業務 <ul style="list-style-type: none"> ・ 経理事務 ・ 物品の整理、保管 ・ 設備の操作 ・ 資料の収集、保管、展示 ・ 資料の調査、研究 ・ 報告書の刊行 ・ 入館者の案内、解説 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務全般について、全職員の情報共有に努め、適正に業務を履行した。 ・ 経理事務について適正に履行した。 ・ 物品管理について適正に行った。 ・ 館内設備の操作に当たっては細心の注意を払い適正に行った。 	A

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 宣伝、広報 【業務区分】 入館料収納事務	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の収集、保管、展示や調査研究について、適正に行った。 ・ 事業報告書を作成した。 ・ 施設の紹介やイベントのPRについて、市公式ホームページやフェイスブックへの掲載、各学校への施設利用案内、市内外各所へのポスター掲示依頼、案内看板の設置、報道機関への案内などを行い周知に努めた。 ・ 音声ガイドの利用を再開した。 ・ 入館料等の現金を直接取り扱う業務は複数の職員で対応にあたり現金の過不足等の不具合は生じなかった。 	
施設の利用状況	平成 24 年度入館の利用者数（14,974 人）を達成すること。	令和 5 年度の利用者は、前年度より 594 人多い 11,322 人の実績であった。	B
事業の実施状況	利用者ニーズに合った展覧会、研修会、講習会等を実施すること。	<p>新規事業を含め 10 事業を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 入館者 70 万人達成セレモニー4/9 ・ 収蔵資料展大漁祈願～浜の絵画展～4/22～5/21 ・ 水産科学館クイズラリー5/4～5/6 ・ こどもの日特別企画スタンプラリークイズ 5/5 ・ 磯の生物展 7/14～8/20 ・ 三館連携企画 めぐってワクワクスタンプ 8/2～8/30 ・ あなたも挑戦！水産科学館博士になろう 9/16～9/18 ・ カラー魚拓講習会 11/5 ・ 小学生からの AI 体験 12/1 ・ 毛ガニミニパーク展 2/10～3/3 	A
施設の維持管理状況	<p>仕様書及び関係法令に基づき次の業務を完全に履行すること。</p> <p>【業務区分】 管理運営業務</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 財産の維持管理 ・ 施設の防火管理、訓練 ・ 施設の警備 <p>【業務区分】 清掃業務</p> <p>【業務区分】 施設保守業務</p> <p>【業務区分】 警備業務</p> <p>【業務区分】 植栽管理業務</p>	<p>【県】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ オイル地下タンク改修工事 ・ 浄化槽内設備修繕工事 <p>【宮古市】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 施設の管理運営について、適切に行った。 ・ 1日に数回、館内を巡回し、設備の稼働状況や展示物の状態を確認した。 ・ 収蔵庫は、毎日定時に温度湿度や収蔵物の状況を確認した。 ・ 火気の取り扱いには、細心の注意を払った。 ・ 自衛消防訓練は、図上と実働を各1回行った。 ・ 専門的な業務については、業者委託を行った。 	A

記録等の整理・保管	各種管理記録簿等を整備、保管し、県の要請に応じて遅滞なく提示すること。	・各種記録簿等について、適切に整備保管を行った。	A
自主事業、提案内容の実施状況	—	—	—
(施設所管課評価) ・成果のあった点 新規イベント等を開催し、入館者数の増加に努めており評価される点である。 ・改善を要する点 引き続き、入館者数の目標達成に向けてPR活動を強化し事業を行うこと。			A

(2) 運営体制等

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
職員の配置体制	各業務に適した者を適正に配置すること。	・各業務に適した人材を適正に配置した。	A
苦情、要望対応体制	苦情、要望に対する対応を適切に行ない、職員間で情報共有を行うこと。	・来館者からの苦情や要望が出された場合は、職員間で情報共有し早急な改善に努めた。	A
危機管理体制（事故、緊急時の対応）	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時、緊急時における訓練を実施すること。 ・仕様書第11に定める対応（入館者に事故が発生した場合の応急手当等）を行うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自衛消防訓練において、火災を想定した避難誘導や通報等の対応訓練を行った。 ・AEDを常備しており、消防署員を講師として招き、救急蘇生法講習を行った。 ・非常灯・誘導灯に不備がないか日々確認を行っている。 	A
コンプライアンスの取組み、個人情報の取扱い	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の法令遵守の意識を啓発する取組を行うこと。 ・個人情報の保護等を定めた基本協定第6章を遵守すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・法令順守の意識について、各職員に周知徹底した。 ・個人情報の取り扱いは、宮古市の個人情報取り扱い手引きに基づき遵守した。 	A
県、関係機関等との連携体制	<ul style="list-style-type: none"> ・県に適宜連絡を行ない、円滑な運営を行うこと。 ・緊急時の連絡体制を構築すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・県と連携を密にし、円滑な運営に努めた。 ・非常動員体制計画図を作成し宮古市水産課とも非常時の連携体制を構築した。 	A
(施設所管課評価) ・成果のあった点 職員間で情報共有を徹底する等、適正な体制のもと運営していると認められる ・改善を要する点 特になし。			A

(3) サービスの質

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
運營業務	職員の接遇向上を図ること。	・来館者へ職員全員が統一した接遇ができるよう向上に努めた。	A
利用者サービス	利用者のニーズにあったサービス提供を行うこと。	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランスホールに水槽を設置して生きた魚介類を飼育展示している。 ・開館時間前後に入館希望があった場合は希望に添うよう対応した。 	A

利用者アンケート等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 正確なニーズ把握の方法を検討し、実施すること。 ・ ニーズ把握の結果を分析すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通年入館者アンケートを実施し、改善が必要な点は改善に努めた。 	A
(施設所管課評価) <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果のあった点 入館者アンケートを通年で設置し、ニーズ把握に取り組んでいる。 利用者のニーズに合わせて、柔軟に開閉館時間の変更を行い、サービスの向上に努めている。 ・ 改善を要する点 特になし。 			A

(4) サービス提供の安定性、継続性

項目	事業計画、県が求める水準	実績（指定管理者の自己評価）	評価指標
事業収支	管理運営計画と収支実績が乖離していないこと。	光熱水費の高騰により、当初予算より指定管理料を増額していただいた。	A
指定管理者の経営状況	—	—	—
(施設所管課評価) <ul style="list-style-type: none"> ・ 成果のあった点 新規イベントを開催する等、継続したサービス提供に努めており、管理運営計画を上回る入館料収入及び体験学習利用料収入があった。 ・ 改善を要する点 引き続き、入館者数の目標達成に向けてPR活動を強化し事業を行うこと。 			A

※（注1）県記載欄：「事業計画・県が求める水準」、「評価指標」「施設所管課評価」

指定管理者記載欄：「実績（自己評価）」

（注2）評価指標

- A：協定書、提案書等の内容について高レベルで実施され、また、計画を上回る実績（効果）があり、優れた管理がなされている。
- B：概ね協定書、提案書等の内容どおり実施され、計画どおりの実績（効果）があり、適切な管理が行われている。
- C：一部、改善・工夫を要する事項が見られたが、改善済み、または改善される見込みである。
- D：協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

8 指定開始年度から評価年度までの総合評価

(1) 指定管理者の自己評価

入館者は昭和 61 年 4 月 18 日開館より令和 5 年 4 月 9 日で 70 万人に達し、当日は記念セレモニーを行いました。入館者数は、前年度より 594 人増加しました。

水産科学館内の展示案内には、生成 AI を使用したガイドシステムを取り入れ、国内外の観光客から好評を得ました。

夏休み恒例の「磯の生物展」は、4 年ぶりに「タッチプール」と「のぞき水槽」を設置し多くの家族連れで賑わいました。

閑散期の入館者増加のため、新たな企画を 3 事業開催し成果が見られました。中でも 2 月 10 日～3 月 3 日まで開催した「毛ガニミニパーク展」は、生きた宮古の毛ガニの展示、生態や重さがわかる掲示物、カニ釣りゲームを取り入れ、子ども達が楽しく学ぶことができるよう工夫しました。結果、入館者数は前年同時期と比較し 400 人増となりました。

水槽関係では、宮古で初めて捕獲された伊勢海老が水産科学館へ提供され、テレビで全国放送されました。常設展示室には東日本大震災に関する写真、休憩室には関係図書を設置していますが、教訓を後世へ伝える必要があるため、令和 6 年度は「巨大津波の記憶写真展」を開催します。

② 現在、苦慮している事項、今後、改善・工夫したい事項、積極的に取り組みたい事項
入館者数はコロナ禍前に戻りつつあります。今後も入館者増加に向け、新しい企画展やイベント・水産科学館のPRなど検討を続けてまいります。

③ 県に対する要望、意見等
開館から38年が経過していることから老朽化が見られるようになってきました。
規格が古すぎて修繕不能で調整中のまま数年経過し入館者から苦情が出ています。
修繕工事については、県と協議の上進めています。館運営に支障をきたしますので、ご配慮をお願いいたします。

(2) 県による評価等

① 指定管理者の運営状況について
工夫して新規イベントを開催する等、継続したサービス提供に努めており、管理運営計画を上回る入館料収入及び体験学習利用料収入があった。

特にも、入館者数が伸び悩む冬期間での「毛ガニミニパーク展」の開催等、新たな工夫が見られた。

また、館内の展示案内に生成AIを活用したガイドシステムを取入れることで、来館者の年齢や言語に合わせた運用を行い、利用者サービスの向上に努めている。

長年にわたり、地元の漁業関係者と良好な関係を築き、活魚や珍魚、漁具等の貴重な資料を無償提供してもらう等、資料収集にも積極的に取り組んでいる。総合的に高いレベルで施設の管理運営が行われていると認められる。

② 県の対応状況について（自己評価）
施設の状況等について随時連絡を取り合い、修繕等の対応を行った。

③ 次期指定管理者選定時における検討課題等
施設竣工から35年以上が経過していることから、今後も計画的な維持修繕を実施して施設の管理運営を行う必要がある。また、常設展示室の内容も開館当初から変わっておらず古くなっていることから、利用者サービスの維持・向上に向け、計画的な模様替え等についても検討が必要である。

9 改善状況等

改善を要すると評価された項目（C、D評価の項目について）
改善状況
（指定管理者から県への報告年月日： 年 月 日）
改善状況の確認
（再評価年月日 年 月 日）